

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育方針 <p>豊かな情操と気品ある人格を育み、 これからの社会を支える 健全な精神を持つ若者を育成する。</p>	夕陽丘教育の4つの柱 <ol style="list-style-type: none"> 1. 一人ひとりの進路希望を実現できる学力を身に付ける学校 2. 自ら考え、行動できるように自主・自律の心を養う学校 3. 国際交流体験を通して自己発見と他者理解を深める学校 4. 国内最高レベルの音楽教育を推進する学校
「情操」とは 美しいものや優れたものに対して素直に感動できる心。相手の良い所に気づき、相手を敬う事が出来る力。	「気品」とは 落着いた振舞い、優しい気持ちで、人と接すことのできる精神的な美しさ。

2 中期的目標

<ul style="list-style-type: none"> ■ 夕陽丘 110 周年の歴史と伝統を踏まえ、新たな教育活動を展開する。 ■ すべての教育活動にグローバル人材の育成、主体的・協働的な学びの観点を取り入れる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「進路希望実現」に関する中期的目標 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「魅力ある授業」「わかる授業」をめざして、授業力を向上する <ul style="list-style-type: none"> ① 問題解決型学習に取り組む：総合と関連を図る ② 指導教諭を中心に授業検討会を実施する：テーマ設定、相互授業見学、公開授業 ➤ 系統的にキャリア教育を推進し、進路目標を明確にし、実現につなげる。(平成 28 年度 学校経営推進費事業において取り組む) <ul style="list-style-type: none"> ③ 各学年の生徒の進路希望に応じた講習を実施する。: スケジュール・講習内容の提供…講座数、受講数 ④ 定期テスト、実力考査の目的を明確にし、適切な実施時期・回数を決め、特にきめ細やかな事後指導を徹底する <ul style="list-style-type: none"> : 志望校決定率 70%以上、国公立・関西 5 私大（関関同立近大）200 名合格 ⑤ 大学進学や留学に必要な英語運用能力を身に付ける。 <ul style="list-style-type: none"> : 英語学力調査のスコア H30 : 500、英検合格率：受験者の 35% 2. 「自主・自律」に関する中期的目標 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 基本的生活習慣を確立し、行事に主体的・協働的に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ⑥ 年間遅刻総数 1000 以下とする。 ⑦ 行事・部活動に主体的・協働的に取り組む：自己診断 90%維持 ➤ 学校、保護者、地域が一体となって安心安全で温もりのある学校・街づくりに参画する。 <ul style="list-style-type: none"> ⑧ 「こころの再生」にかかるあいさつ、学校・地域のクリーンアップ、高齢者施設、病院との交流活動を行う。 ⑨ 教育相談委員会、教育支援委員会を中心に教育相談・支援体制を確立し、学校全体での情報共有を一層推進して指導に当たる。 ⑩ 「学校いじめ防止基本方針」を踏まえ、いじめの未然防止に努め、いじめ事案に適切に対応できる体制を確立する。 ⑪ 防犯・防災体制を日常化する。 3. 「国際理解教育」に関する中期的目標 (平成 28 年度 学校経営推進費事業において取り組む) <ul style="list-style-type: none"> ➤ 海外修学旅行、海外語学研修、ウィーン音楽研修を継続実施し、国際感覚を磨く。 <ul style="list-style-type: none"> ⑫ 交流に必要な英語を含む語学力を身に付ける。 ➤ 海外の学校の訪問や留学生を積極的に受け入れ、双方にとって有効な国際交流を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ⑬ 姉妹校：クラークスタウン高校（アメリカ・ニューヨーク）、鳳新高級中学（台湾） ➤ 国内にいながらにして国際交流を体験できるような様々な機会を提供する。 <ul style="list-style-type: none"> ⑭ 生徒国際交流委員会の定期的開催、国際交流新聞の定期的発行等、国際交流の活動を学校全体で計画的に行う。 4. 「音楽教育」に関する中期的目標 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 国や府の推進事業等を積極的に活用し、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座等を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ⑮ 國際舞台で活躍することを意識した特別レッスン、特別公開講座を取り入れる。 ⑯ 一流の指揮者を招聘して、NHK 大阪ホールでの定期演奏会を継続する。 ➤ 生徒の企画運営による学内演奏会やアウトリーチ活動を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ⑰ 校内のヴィオラホールを活用して、また、近隣病院・小学校、地域での音乐会を実施する。 ➤ 国内及び海外の大学・音楽学校と連携し、交流や短期留学を促進する。 <ul style="list-style-type: none"> ⑱ 韓国、台湾、オーストリア、ハワイの学校と交流を継続する。
--	--

府立夕陽丘高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成28年10月実施分〕				学校協議会からの意見
<p>・生徒に対する質問19項目中、肯定的回答率が70%以上を占めるものが18項目、また、16項目において昨年度を上回り、他の3項目についてもほぼ横ばいで推移している。今年度重点を置いた「キャリア教育の推進」、「実力考査（学力生活実態調査）の振り返り」等進路関係について大きくポイントを上げており、丁寧な進路指導が評価されたといえる。「人権教育」「国際理解教育」については、各委員会と学年とがタイアップして取り組んだ成果と考える。</p> <p>・保護者については、19項目中15項目で肯定的回答率が80%を越えており、すべての内容において評価されている。特に、「保護者との情報共有や情報提供」の項目は大きくポイントを上げており、学校と保護者が一体となって「オール夕陽」が具現化できていると考える。今後も継続して信頼される学校づくりをめざしていきたい。</p> <p>・教職員については、「授業の工夫」「生徒指導」「学校行事」「国際交流」についていずれも80%以上の肯定回答率で、学校の特性を生かした教育活動を展開していることがうかがえる。今年度、特に「教育相談」「地域連携」「個人情報保護」の項目で大きくポイントを上げており、教育相談・支援機能の充実及び部屋の改良、防災を含む天王寺区との連携事業、生徒の人権を護る観点から教員の危機管理意識が醸成されてきたと考える。</p>				第1回(5月25日)の協議 ・夕陽丘は普通科・音楽科の2つの科があつての夕陽丘という認識が重要。互いによさを認め合うことが「グローバル人材」育成にもつながる。夕陽丘の「グローバル」の定義を作る必要がある。 ・海外の大学へ直接進学する生徒が増加、進路選択の1つとして成熟してくると、「海外進学コース」といったコース化が可能かもしれない。 ・2020年大学入試センター試験の廃止後、授業コンテンツ作りが必要。具体的には、アクティブラーニングを活用した授業により、コミュニケーション能力の向上や新たな受験の形にも対応できる。そのためにも主体的・協働的学習のための授業改善が必要である。 ・創立110周年は、あくまで通過点であるが、これを機に「All・夕陽」での取り組みを活性化させる。
学校教育自己診断 肯定的回答率				第2回(10月28日)の協議 ・電子黒板のスキルの情報交換や活用アイデアの伝播が必要で、電子黒板のよい部分と課題を明確にする必要がある。 ・高校において英語の授業は、オールイングリッシュで教員が進めていく必要がある。 ・夕陽丘の生徒には、海外留学のための英語力以上に、海外進出できるレベルをめざした英語力を身に付けてほしい。 ・教員の多忙感について、何もかもを求めるのではなく、4つの夕陽丘教育の柱を優先し、その中から優先順位をつけてやっていけばよいのではないか。
				第3回(2月1日)の協議 ・夕陽学の課題設定、研究、発表のスタイルが各教科に取り入れられるようになれば、次の新学習指導要領がめざすものに近い形になっていくのではないだろうか。 ・夕陽学の教員連携の面については、実施は第一学年であったとしても「夕陽学プロジェクト」等、組織化し、各教科より代表者をつのったりすることで、他人事ではなくなるのではないか。そうすることで各教科にも方法を持ち帰りやすくなり、より夕陽学を各教科に還元していくと思う。 ・海外の学校と交流をする際に、何を交流するのかより具体的に決めるよりよいものになる。単なる海外の学生と雑談でコミュニケーションをとるよりかは、ディベートを英語で討論してみたりするなど、より論理的討論をすると実りあるものになる。 ・また各教科におけるグローバル、国際的な部分を一覧化してみると、教育の4つの柱である「国際理解教育」ではなく「グローバル人材の育成」などの文言に変更した方が本来求めているものに近づくのではないか。 ・スマートフォンを持つというのは、小中学校と大きく変わるものである。高校生とスマホのつきあい方を教えてあげなければいけないと思う。

府立夕陽丘高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 進路実現	➤ 「魅力ある授業」「わかる授業」をめざして、授業力を向上する。	① 教科に問題解決型学習を取り入れ、「総合」との関連を図る。 ② 「魅力ある授業」をめざし、指導教諭を中心に授業検討会を実施する。	① 問題解決型学習の実施 ② 授業見学、公開授業の回数、「魅力ある授業」の特徴をまとめる アンケート平均 3.1、自己診断 75%以上	① 校内研修・研究授業実施 (7/20) (◎) ② 授業見学 181 回、「魅力ある授業」の特徴作成中、授業アンケート平均 3.26、自己診断 79.1% (◎) ③ 実施：27 回、自己診断 生徒 83.4%、保護者 77.7% (◎) ④ 毎回実施 自己診断 生徒 63.6%、保護者 74.6% 218 名 国公立 36 名、関西 5 私大 183 名 (◎) ⑤ 英語学力調査のスコア 469、英検 2 級合格率 41% (◎)
	➤ 系統的にキャリア教育を推進し、進路目標を明確にし、実現につなげる。	③ 各学年の生徒・保護者に応じた進路講座や説明会を実施する。: スケジュール・講習内容の早期提供 ④ 定期考查、実力考查、外部模試の目的を明確にし、適切な実施時期・回数を決定し、きめ細やかな指導、効果的な事後指導を研究する。	③ 実施の維持 (H27: 7 回)、保護者の受講者数半数以上 ④ 事後指導の実施、生徒・保護者の反応、志望校決定率 7 割以上、国公立・関西 5 私大 (関関同立近大) 200 名合格	
	➤ 大学進学や留学に必要な英語運用能力を身に付ける。	⑤ Can-Do リストを活用し、4 技能を伸ばす。	⑤ 英語学力調査のスコア 450 (1 年 8 割) 英検 2 級合格者数 受験者の 35%	
2. 自主・自律	➤ 自主・自律の心を養成し、行事に主体的・協働的に取り組む。	⑥ 基本的な生活習慣を確立し、学習意欲につなげる。 ⑦ 行事・部活動に主体的・協働的に取り組む ⑧ 「こころの再生」にかかるあいさつ、学校・地域のクリーンアップ、高齢者施設、病院との交流活動を行う。	⑥ 遅刻総数 1000 以下 ⑦ 自己診断 90%維持 ⑧ 自己診断 H27 (80.8%) 以上、活動回数 5 回以上	⑥ 807 回 (◎) ⑦ 自己診断 生徒 95.3%、保護者 97.1% (◎) ⑧ 自己診断 生徒 86.3% 活動回数 7 回 (◎) : 大阪マラソンクリーンUP 作戦、献血街頭キャンペーン等 ⑨ 生徒 72.3% 教職員 86.4% (○) ⑩ 対象事例なし (○)
	➤ 学校、保護者、地域が一体となって安心安全な学校・街づくりに参画する。	⑨ 教育相談委員会、教育支援委員会を中心とした教育相談・支援体制を確立し、学校全体での情報共有を一層推進して指導に当たる。 ⑩ 「学校いじめ防止基本方針」を踏まえ、いじめの未然防止に努め、いじめ事案に適切に対応できる体制を確立する。 ⑪ 防犯・防災体制を日常化する。	⑨ 自己診断 H27 (71.2%) 以上 ⑩ いじめゼロ ⑪ 防災支援事業の活用、地域と連携した防災訓練の実施	⑪ 防災士による防災・防犯体制の見直し、防災研修 (1/6)、避難所運営マニュアル検討、天王寺区と避難訓練実施 (12/11) (◎)
3. 国際交流	➤ 海外研修を継続実施し、国際感覚を磨く。 ➤ 海外の学校の訪問や留学生を積極的に受け入れ、双方にとって有効な国際交流を展開する。 ➤ 国内にいながらにして国際交流を体験できるような様々な機会を提供する。	⑫ 交流に必要な英語を含む語学力を身に付ける。 ⑬ 留学生、姉妹校：クラークスタウン高校（アメリカ・ニューヨーク）、鳳新高級中学（台湾）との交流内容を深める。 ⑭ 生徒国際交流委員会の定期的開催、国際交流新聞の定期的発行、国際交流活動を学校全体で計画的に行う。	⑫ 英語以外の教科等で英語による授業の回数、語学講座の実施回数 ⑬ 留学生の積極的な受け入れ数、交流回数 自己診断 H27 (80.6%) 以上 ⑭ 生徒国際交流委員会年 6 回実施、国際交流新聞 3 回発行 大阪文化発信マップの作成 自己診断 H27 (80.6%) 以上	⑫ 情報科・音楽科 NY クラークスタウン校 凤新高級中学との交流 ⑬ 留学生 8 名 (アメリカ 4、フランス 1、中国、ノルウェー、ドイツ) 自己診断 生徒 86.2%、保護者 85.5% (◎) ⑭ 委員会 6 回、新聞 3 回、マップ作成中、自己診断：生徒 86.2%、保護者 85.5% (○)
4. 国内最高の音楽教育	➤ 国や府の推進事業等を積極的に活用し、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座等を実施する。	⑮ 国際舞台で活躍することを意識した特別レッスン、特別公開講座を取り入れる。 ⑯ 一流の指揮者を招聘して、NHK 大阪ホールでの定期演奏会を継続する。	⑮ 特別レッスン・公開講座の満足度 100%、外国語によるレッスン実施 ⑯ 事後アンケートの満足度 100%	⑮ レッスン 16 回、講座 7 回：満足度 100%、外国語レッスン 1 回 (○) ⑯ 満足度 100% (○)
	➤ 生徒の企画運営による学内演奏会やアウトリーチ活動を展開する。 ➤ 国内及び海外の大学・音楽学校と連携し、交流や留学を促進する。	⑰ 校内のヴィオーラホールを活用して、また、近隣病院・小学校、地域での音楽会を実施するとともに府内外へ発信する。 ⑱ 大阪教育大学、大阪芸術大学、韓国、台湾、オーストリア、ハワイの学校と交流を継続する。	⑰ 校内、近隣病院・小学校、地域での音楽会の実施回数 ⑱ 大学、韓国、台湾、オーストリア、ハワイと交流実施	⑯ 校内 2 回、校外 7 回 (○) ⑰ 大阪教育大学、大阪芸術大学、台湾、韓国、ハワイと交流、プロのオーケストラ大阪交響楽団と共に演 (○)